

トラックパレード2018

圧巻だった250台の結集

18春闘勝利！「生コン産業の民主化をめざし、安倍政権打倒！辺野古新基地建設NOをめざす」3・11自動車パレードが3月11日（日）此花区夢洲のコンテナ駐車場を借りて開催した。大阪支部からは鉄鋼材輸送車を始め5台のトレーラーが参加した。

朝5：30に到着した時にはすでに30台が待機していた。6時の開門から車両が整列し、約250台が結集した。

9時に始まった集会のあいさつの中で國分副委員長は「本日の集会開催地は問題になっているIR建設予定地の左手側になり、コン

テナを運ぶ台車が渋滞状態にもなるにもかかわらず、対策も整備も何もされていない。国家権力、警察権力、排外主義には徹底的に抵抗していきたい」と話された。

今年もこの観点で闘い、組合潰しをする業界を正常に戻すこと、大阪広域協組は、労働組合法違反、協同組合法違反、独禁法違反、法律無視の無法地帯になっていて、民主化することだと主張された。また、あいさつの中で「森友問題では一人の尊い生命が失われました。ついに佐川という当時の責任者が辞表を出しましたが、財務大臣の麻生、安倍総辞職まで闘いを続けるべきではないで

しょうか。沖縄の基地は絶対認めるわけにはいかない、基地をなくしていくことは基本的に日米安保条約を破棄するという、日米地位協定を改めさせるということ。原発の問題、再稼働とか輸出という人の生命より金儲けを優先させるような事は絶対認めることはできません。戦争法案、憲法まで改悪させようとしている。この安倍反動内閣を打ち倒していく力は国会の中での闘いも重要ですが、このような仲間、職場で闘うストライキを中心とした大衆行動、この力によって倒すほかありません。

世界の平和のために、韓国の仲

権を追求する方向が今大きくクローズアップされており、私たちは圧力や制裁でなく、民衆間の国際連帯と、我が国は過去に36年間にわたる植民地支配をしたことに対する反省と謝罪と償いをするということが当然、平和的な解決をするという今の流れを後押ししなければなりません」と高らかに述べられた。



国鉄千葉動力車労働組合委員長の田中康宏さんは「みなさんの歩んでいる道は日本の労働組合が誰も踏み出したことがない新しい道だと思っている。みなさんの闘争が日本の労働者の闘争をどれだけ守っているのか、だから政府の手先、ゼネコンの手先、メーカーの手先になった連中がこれを潰したいということがある」と話されました。

集会後、約250台による自動車パレードが大阪市内を走行し、市民などに訴えた。（陣内）

共済会総会報告

共済委員会第41回定期総会が、3月26日に地本会議室にて、代議員数42名中、出席代議員20名・委任19分、共済会役員を含め全体34名参加で開催されました。

開催あいさつで、樋口共済委員長は「設立41年経過し、当初から現状変化に伴い、問題は山積している。今後、共済会運営について、活発な意見を願う。」と話されました。

その後、議長に選出された、月星海運分会の岡代議員が議事進行し、来賓あいさつとあわせて、全労済よ

り松下課長から団体生命共済の現状と提案の説明がなされました。

議事に移り、17年度活動・決算報告及び18年度運動方針（案）が確認されました。あわせて、18年度新役員体制についても確認され、和泉事務局次長の団結がばらうで閉会しました。

本総会で確認された運動方針の下、共済事業運動の発展・拡大に奮闘しますので、今後とも各加盟分会のご協力、ご理解をお願いします。

本総会で、福田事務局次長（オーエステー分会）・武田委員（太陽陸運分会）・増野書記局が退任されました。長い間ご苦勞様でした。（赤保）

イラク開戦15年！
とめよう戦争の道！

15年前の悲惨なイラク戦争を再び引き起こさないために、大阪平和人権センター・しないさせない戦争協力関西ネットワーク・戦争をさせない1000人委員会・大阪が主催し、3月24日（日）、エルシアターにて参加者800人の中、「止めよう戦争の道2018関西のつどい」が開催された。

ゲストには柳澤協二さん（元内閣官房副長官）と安次富浩さん（ヘリ基地反対協議会共同代表）を招き、講演していただきました。

柳澤さんは当時ブッシュは北朝鮮・イラン・イラクを悪の枢軸と呼んでいた。当時、大量破壊兵器をもってアメリカに逆らう国としてイランを攻撃した。実際に戦争が終わって、探したが大量破壊兵



器は出てこなかった。派遣される隊長に「あなたは大事な仕事はなにもなくていいから全員を無事に連れて帰ること」と言った。なぜなら政治がそれ以上を望んでいないからだ。1人でも怪我人ができれば内閣が潰れると危惧されていた。しかし、本来は軍隊を出すということは死んでもこの目標を達成してこいという任務が当たり前なのにそうではない。でも現地で自衛隊の犠牲者が出ていれば今の安保関連法は阻止できただろうか。もっとひどい法制度で、すでに国防軍ができ上がっていたかもしれない。

今の政権の雰囲気からすると

「撃たずに帰ることは許されない」という空気感のほうが強いのではないか。マニュアルに従ってきちんとやれるような現状とはそういうことではない。予測とは違うことが起きるのが戦場である。

アメリカはイラクに200万人送り帰還兵の50万人がPTSDなど人格障害を起こしている。自衛隊員もイラクやインド洋に派遣された経験のある56人の自衛隊員が、在職中に自殺していた。このうち、精神疾患を原因としたものは14人で2015年の政府答弁で明らかになっている。PTSD傾向にある隊員が毎年1千人以上で推移していること、うつ病や不安障害傾向の隊員はその数倍に及んでいることも忘れてはいけない。戦争と憲法を直接結び付ける理屈はあるとしても他人ごとではなく人間性が崩れることや罪もない人を殺さなければいけないのが戦争なのだ。

憲法9条2項を変えることは、「自衛隊を国民は支持しているのだから憲法上の理論を作らなければかわいそう」といっている。しかし、問題は国民が支持している自衛隊はどういう自衛隊なのかということを考えないといけない。災害派遣で国民を救助してくれる自衛隊、戦場に行っても1人も殺していない自衛隊だからこそ国民の支持があるのだろう。憲法を守って国が滅んでもいいのかといわれるが、国を守るとはどういうことかを問いたい。戦争になれば国民の財産を守ることはできない。何を守るのか国の在り方を守らなければならない。国の在り方ってなんだ、それは憲法に描かれている。1つ目は主権在民、2つ目は基本的人権の尊重、3つ目は平

和主義です。平和憲法は政府が再び暴走して戦争しないように、そして悲惨な社会にならないよう、国民のために制定されたもの。イラクの人びとの15年の苦しみと、日本は無関係ではない。



沖縄からの訴えとして安次富さんからは、沖縄辺野古に新基地建設が進められている中、厳しい状況が続いている。しかし、土木技術的な観点から見ると、工事の計画を変更せねばならないことが多く、名護市長や沖縄県知事の承認がなければ進められない。大浦湾には7万種が生息する奇跡的な貴重な海域でもあり、他国でも埋立反対の署名や行動をしてくれている。活断層が見つかり調査を始めているが、未だに政府は認めていない。軟弱地盤の存在を防衛省は把握していたが、報告をしてこなかった問題が浮き彫りになり問題のある海域には手が出せず、浅瀬のところで護岸工事を強行している。5月に米国でジュゴン訴訟の差し戻し裁判がある。また、連日ゲート前に座り込む人が国内だけでなく世界からも集まっている。2月の名護市長選挙は負けたが、9月名護市議会議員、12月沖縄県知事が控えていて野党共闘でこれからの選挙に勝利することを目指し各団体が頑張っている。私たちは決してあきらめない。

これからも民衆の力で安倍政権の暴走する基地建設を断念させよう。集会後、参加者全員で西梅田公園まで約1時間のデモ行進をした。（陣内）